



THE BAJ NEWS

日本ボストン会 | Boston Association of Japan | 会報 : 56号

映画会



日時:3月5日(金)~11日(木)
各日とも午前9時~11時
(日本時間)
主催:一般財団法人自治体
国際化協会 (クレア)
ニューヨーク事務所

今後のイベント



コロナ禍でいつものイベントの開催が見通せませんが、リモートでのレクチャーシリーズや秋には映画会が検討されています。具体案がまとまった時点でメールでご案内します。

日本ボストン会HP



<http://www.j-boston.org/>

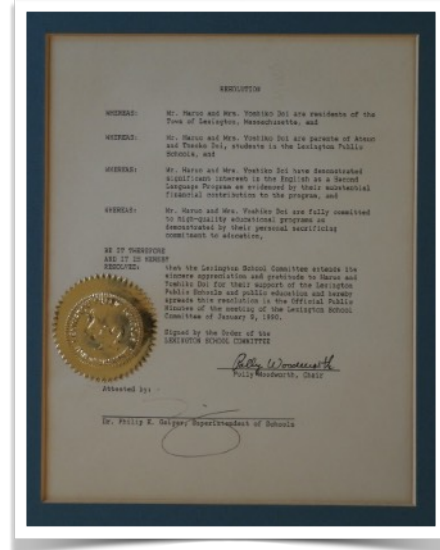


会長就任のご挨拶

会長：土居 陽夫

この1年は特別の年となってしまいました。コロナの影響で、当会も通常の活動がほぼできませんでした。それでもZoomを使ったテレビ会議で幹事会や総会を行う事ができ、これもありかなと思いつつ環境の変化を改めて感じています。

私がボストンとの関わりができたのは1986年10月。e-mailも普及しておらず、本社との通信はテレックスでした。隔世の感です。会社からボストン駐在を命じられLogan Airportに到着したのは体育の日でした。紅葉の当たり年だったのか、初めて見るものは素晴らしく思えるのか、今



日本ボストン会事務局



〒169-0051 東京都新宿区西早稲
2-14-1 (株)日本レーザー内

まで見た中で一番の紅葉に感激したのを思い出します。事務所が郊外のBurlingtonに在ったこともあり、Lexingtonに適当な借家を見つけました。吉野さんや酒井さん他の当会の諸先輩にはその頃からお世話になっています。

着任した時、子供たちは日本の小学校では4年生と2年生だったので、Lexingtonで5年生と3年生に編入しました。日本語を喋れる生徒はおらず、全く英語のできない私の子供たちはESL (English as a second language) のクラスで、初めは多くの時間を過ごし徐々にアメリカに慣れていきました。ESLは無償で、優しい先生に丁寧な指導を受け、子供たちは多くのものを得ました。おかげで新しい環境に馴染むことができ、アメリカの包容力を感じました。

5年半の駐在を終え1992年3月に帰国することになりました。帰国にあたり何かお礼をしたいと思い、子供たちがお世話になったESLが資金不足で教科書が買えないとのことだったので、ESLに\$1,000の寄付をしました。しばらくすると、Lexington School Committee からResolutionを渡すのでTown Meetingに来て欲しいと言ってきました。中に、「substantial financial contribution」とあり、大袈裟だなと思いながら、ありがたく頂戴しました。

その当時、ボストンの日本人会では日本語補習校が施設を使わせてもらっていたMedford High Schoolの教員を毎年2名日本に送っていました。半額費用を負担すれば他の地域からも送れることになり、相対的に多くの日本人が住んでいたLexingtonから第1号を送るための寄付集めを始めましたが、集めきれないままの帰任となり、後を関野さんに託しました。無事集まるか心配でしたが、関野さんのご尽力で無事Lexington Highschoolの教師を日本に送り出すことができました。帰国後、来日される教師の方に1日ホームステイをしてもらおうという事になり、我が家にも2回お泊まりいただきました。

当時日本人会の会長だった吉野さんから帰国したら先に帰国されている藤盛さんを助けてボストンの日本人会のCounter Partとなるような組織を立ち上げてくださいと言われたのが、私がボストン会をお手伝いするきっかけでした。吉野さんの思われていたものとは異なるものになったように思いますが、1992年の10月に日本ボストン会の設立準備委員会を行い、翌年の10月に第1回総会を行いました。

以来、ほぼ30年。私も歳をとりましたが、会も会員も歳をとりました。周りを取り巻く色々な環境も変わりました。会が終わることもありとは思いますが、可能であれば会を若返らせ、次の世代で会を運営して頂ければと思い、その橋渡しが私のミッションと思っています。幹事会メンバーを中心に古くからのメンバーは会の運営を卒業し、若手主体の運営チームにバトンを渡してゆきたいと思っています。とはいえ、卒業しても30年のお付き合いは大切にしていきたいと思います。

Lexingtonで林に囲まれていたのが忘れられず、現在は長野県の蓼科の林の中に半分住んでいます。New



2020年11月、四国の二百名山「三嶺」山頂

Hampshireの Mount Monadnockに家族と登ったのがきっかけで、帰国後にハイキングや登山を始め、2017年の10月に日本百名山を登り終えました。仕事はもちろんですが、私生活でもボストンで過ごしたことに大きく影響を受けています。

ワクチン接種も始まりつつあります。コロナが収束し、早く通常の生活に戻れるのを切望しています。

THE JAPAN SOCIETY OF BOSTONについてのささやかなご報告

水野 賀弥乃

日本ボストン会の会員の方でJSBの会員でいらっしゃる方もいらっしゃると思います中、誠に僭越ながら、JSBについてご報告申し上げます。

Japan Society of Bostonは1904年に米国初の日本とアメリカの友好を目的に非営利団体として設立されました。個人、組織、企業を繋ぎ、楽しみながら交流を深めてゆくことで、互いの文化と経済への理解を深め、日米関係の重要性を共有してゆく活動をしています。

始まりは日露戦争において日本に同情的な方々の非公式の話し合いからでした。第二次世界大戦によって中断されるまで、この活動は非公式の社交の場であり、主に日本からの政府高官がホスト役を担っていました。1953年には故エドウィン O. ライシャワー大使のリーダーシップの下に活動は再開され、1958年に法人組織となりました。1970年にはパートタイムスタッフを雇用して、オフィスを設けるに至りました。1980年にはJapan-U.S. Friendship Commissionより助成金を授与され、理事を迎えることが出来、会員も増え、プログラムも増やすことができました。助成金の授与は1986年に終了しましたが、JABは引き続き成長し続けており、会員その他の方々へ、年間30件以上のプログラム、また書籍、情報等を提供しています。

JSBは、Bi-WeeklyでNewsletterを発行しています。ご参考までに直近のNewsletterに掲載されているイベント等を以下にご紹介致します。

3月4日（木） 6:00-7:00 PM EST

Susan Napier's Miyazakiworld

アニメ・エキスパートのSusan Napier氏が彼女の最新著書、Miyazakiworld : A Life in Artについて、MITの文化人類学者であるIan Condry氏と対談します。彼女が「前例なきアニメーター」と表現する宮崎駿氏が、如何にしてアニメーターとして大成したか、また彼が創り上げた世界と彼を創り上げた世界について語ります。

3月6日（土） 7:00-8:00 PM EST

Resilience & Rugby: An Evening with Japanese Rugby Legend, Kensuke Hatakenyama

JSBとJapan America Society of Houston (JASH)との共催で、日本ラグビーのレジェンドであり、東日本大震災の津波によって家族の家を失った仙台出身の畠山健介氏によるピッチでの回復力と日米スポーツ交流において直面するチャレンジへの回復力についての講話。

3月24日（水）6:00-8:00 PM EST

Japan Society of Boston Members' Book Club

日本文学を読み解く活動をしています。谷崎潤一郎の「卍」について語り合います。この読書会は会員に限られていますが、サインアップなされればご参加可能です。

3月28日（日）6:00-7:00 PM EDT

The Art of Scent: Incense Sachet Workshop with Shoyeido

Jap0an America Society ColoradoとThe Japan Society Canada共催。1705年創業のお香の専門店、京都松栄堂12代目主人、畑正高氏による香りのワークショップ。日本における香りの歴史と重要性を語って頂き、匂い袋作成のワークショップを行います。

既に終了してしまった2月中のイベントでは、ピーボディ・エセックス・ミュージアムにて森英恵氏についてのプレゼンテーション、JSB Language Roomでは、Zoomによる参加者を募り日米の文化の懸け橋となるべく、今回はコメディをテーマにの話し合い。また、子供のための楽しい日本語の時間や、日本料理第9弾、鴨南蛮のホームクッキングの時間も設けていました。ボストンの学生さんでJSBのインターンをなさっているDaikiさんの「ラーメン日記」も紹介されています。また、全米各地のJapan SocietiesのOnlineによる活動の紹介も掲載されています。その他、日本関連の多くの情報（日本語学習、NHK関連、日本の美術館情報等）が掲載されています。

昨年10月30日には日本に造詣の深いヨルダンのRaiyah王女様による源氏物語や日本映画のお話を聴くことができました。現在カリフォルニア大学日本文学博士課程にいらっしゃるお美しい王女様の清楚でご誠実、謙虚なお姿に感銘を受けた方が多ございました。

11月16日には日本のコロナ対策とパンデミックに対する日米協力の大切さを、京都大学の山中伸弥教授とともに語るイベントが開催されました。

2月1日には、昨年12月に逝去されたJSBボードメンバーでいらした故Ezra Vogel博士の追悼会が催されました。2000年~2015年にJSBのPresidentでいらしたPeter Grilli氏は、「Vogel先生」との思い出を語ってくださいました。1960年、Grilli氏がハーバード大学1年生の時に初めて出会う、以来60年来の素晴らしきご友人でいらっしゃいました。その頃Vogel氏は日本社会に関する初の著書を書いていらしたそうです。2000年にJSBのPresidentとしてGrilli氏がボストンへ戻られて、最初に協力を求めた方がVogel博士で、JSBのボードメンバーとなってほしいと一番お願いなされたそうです。博士は即座に、ミーティングには参加しないが、JSBへの全面協力は惜

しまないとおっしゃり、生涯そのお言葉通り実行されたそうです。Grilli氏が協力を求める時には、即座に心からの協力を惜しまれなかったこと、そして、決してボードミーティングには参加されなかったそうです。Grilli氏はVogel博士は、ご自身のお言葉に生きる真の「先生」でいらしたとお話してくださいました。

私事で大変恐縮なのですが、1979年、名著「ジャパン アズ ナンバーワン」が出版された後、Vogel博士が来日されました。その頃、大学卒業直後の私は、ある出版社で2-3ヶ月アルバイトをしていました。私は、来日された博士をホテルにお迎えにゆき、出版社までお連れするという使命を受け、出かけてゆきました。ホテルでお会いして、地下鉄で出版社までお連れするはずが、あまり馴染みのないエリアの地下鉄での帰り方がわからず、切符売り場前でオロオロしてしまいました。そんな私をご覧になって、私よりも地下鉄を良くご存知のVogel博士が、結局、私を出版社へ連れて帰ってくださいました。真に面目なくも、Vogel博士のお優しさをしみしみ思う私の貴重な思い出でございます。

この様にJapan Society of Bostonはアメリカと日本を愛する先人たちによって生まれ、その長い歴史の中で、戦争による中断を余儀なくされたにもかかわらず、2021年の現在に至るまで活発に活動し続け力強く成長しています。その活動を改めて知ることによって、1904年の日本とアメリカが再び結び合うことに強く心を寄せる方々の熱い想いが生き続けていること、そして人間の意思と互いの国への尊敬と愛情がこもった絆が固く固く編まれ続けていることを実感せずにはいられません。

セイヤー賞のこと

関直彦

この度、ボストンの日本祭り実行委員会がJohn E. Thayer III Awardを受賞したとのこと。ボストン日本祭りを遠方から応援してきた当会にとっても嬉しい知らせです。先日亡くなられたドナルド・キーン氏も2010年に受賞しています。ハーバード大学を卒業し、セーラムのピーボディ博物館（後にピーボディ・エセックス博物館）で日本の美術工芸のリサーチフェローを務めていたセイヤー氏との出会いはJapan Society of Bostonの理事会でした。剣道2段、古武士の風格をそなえた立派な紳士でした。

米国に現存する最古の博物館であるピーボディ博物館は、セーラムを母港とする外航船の船長達が、日本をはじめアジア各地で入手した民芸品や民具を持ち寄って発足したものです。大森貝塚を発見したことで知られるエドワード・シルベスター・モースは、日本の民芸品や民具を大量に収集して日本から帰国した後、この博物館の館長を永年にわたって務めていました。1990年に大阪の国立民族博物館で「海を渡った明治の民具：モース・コレクション展」が開催されることになり、私が所属していた凸版印刷の関連会社で、博物館の設計・展示を専門に手掛けるスタッフ達が、セイヤー氏や民博の守屋助教授と共に、モース・コレクション里帰り展の準備に従事していました。たまたま我が息子の親友の父親であるピーター・フェチコ氏がピーボディ博物館の

館長を務めており、更に私の郷土である大田区とセーラム市、また同博物館と大田区郷土博物館が姉妹提携した縁で、私とピーボディ博物館との関係が急速に深まりました。

しかし残念なことに、民博でのモース展の成功を見届けた直後、何と僅か1カ月のうちにセイヤーと守屋の両氏が相次いで他界してしまいます。折角親しくなったのに、痛恨の極みでした。翌1991年、セイヤー氏のJapan Society of Bostonの中心的理事としての業績、及びPeabody Museumでの文化交流の実績を記念して、John Thayer III Awardが発足し、日米間の理解と友好に特に貢献した組織や個人を表彰することになりました。

以降、セイヤー賞の表彰状を手渡すのは、和服姿の桂子夫人です。Keiko Thayer（福原）さんは、元いけばなインターナショナル・ボストン支部会長であり、またボストン日本協会のセイヤー賞主席理事です。桂子夫人は令和元年春の叙勲で、日本文化の普及、及び日米間の友好親善促進に貢献した功績により、受章されました。

先日NHKのテレビを見ていたら、モース博士に関する2012年制作のドキュメンタリーの再放送で、桂子夫人が登場しているのを発見してビックリ。Peabody Essex Museumで、江戸時代に発明された各種のアイデア製品を、アメリカ人漆芸家に案内して回る場面でした。桂子夫人はセイヤー氏亡き後、同博物館で日本担当スタッフとして永らく勤務していました。数年前から彼女はパーキンソン病を患い、ケア付きのマンション暮らしです。先日グリーティングカードを桂子夫人から頂きましたが、筆跡はしっかりとおり、それは現代医学のお蔭とのことでした。



ボストン便り - 7 February 19th, 2021

八代 江津子

米国本土が気温の変化に悲鳴を上げています。テキサスでマイナスの温度を記録し、普段暖房などを持たない家々は寒さに震え、またインフラも雪や低温に対応出来ず電気の供給も止まり死者も出るという事態です。ここ、ボストンでも0度にも下がらない温かい冬をクリスマスまで迎え、年が明けるとマイナス10～15度が1週間も続くという寒波。寒波で大雪が降ったかと思うと10度で温かい大雨が降り、また翌日はマイナス15度。我が家のドライブウェイはアイススケート場に早変わり。車に乗るまでにアイゼンを履くという笑えない笑い話です。

パンデミックが続く世界ですが、ボストンでは相変わらずの高い感染率が続きます。2月19日現在での毎日の感



感染者数はおよそ2000名。かなり高い数での安定です。スーパーボールが終わって1週間で一度大きなピークを迎えたのは、米国らしいところです。夫の勤める学校が閉鎖しました。1月からはワクチンの接種が始まりました。まず医療従事者からスタートし、85歳以上、75歳以上を経過し現在は65歳以上と指定疾患者、そして介護者が始まったところです。私が接種できるのは、4月の終わり頃かと推測しています。ここ、マサチューセッツではCVS等の薬局+マーケットや、特設会場が接種場所に指定されていますが、街により配布量がコントロールされています。低所得者層の住居地域は生活密度が高いために多く配布され早急の接種を促されています。その中でも接種のプロセスは、当初インターネットに限られていたことから85歳以上の評判が悪く、現在はホットラインが引かれ、電話での予約も行われている状況です。日々システム



が改善され、私も政府のサイトをチェックする度に新しい機能が追加されており、本日の新機能は、「あなたの番になったら連絡するので、登録を！」氏名、住所、職業、年齢、既往歴、連絡先を記載します。常に向上していくという意図が見える政府の姿勢には感謝です。

ワクチンは怖い、という噂もあり一部南部または中央部ではワクチンに対して否定的な言葉を聞きます。また短期間でのワクチン開発が不安を煽るのもわかります。そこで、MGHで助教授として働く医師、妊婦である友人の記事を転載します。どのような事にもリスクは有るけれど、どのリスクを取ることが自分に大切か、また周りに有効であるかという事のようにも思います。

Covid19に打ち勝つ事は出来ずとも、うまく付き合う事でまた皆さんにお会いできるのを楽しみにしております

Mai Uchida: Massachusetts General Hospital

”As a pregnant doctor and clinician-researcher, I put a lot of thought, scientific reading, and pregnant pondering into whether I should get this vaccine now while I’m pregnant or wait until after I deliver, and in the end, my answer was very clear that I need this for myself, my family, the participants coming in-person for our clinical trials and neuroimaging studies, and everyone who encounter who I encounter.

Pregnant women are 3 times more likely to have ICU admissions, 3 times more likely to need advanced life support and mechanical ventilation, more likely to die; and may be at increased risk for stillbirth and preterm birth; if infected with Covid.

The mRNA vaccine has such a clever design that I could not come up with any probable scenarios of it harming the baby or me, and the safety data on non-pregnant people is very strong.

Even with the pregnant pondering (the natural anxiety of the unknown hurting my baby in some unknown way), the weighing of the risks associated with vaccination vs the risks associated with getting infected had a clear winner for me, personally.

It's a personal choice that every pregnant woman has to make for themselves weighing their risks, and I feel that there's no right answer nor shame in whatever we choose to do! While I mourn watching the news that confirms what a portion of this country represents, in my immune system, I feel the deep gratitude of the decades of scientific research that made this possible, and am excited that the antibodies that I produce in response to this vaccine will likely cross the placenta and protect our baby as well!"

—————この原稿を書いている途中に健康な赤ちゃんが誕生しました。2021.2.19

ボストンと私

生田 英機 (父)

私 (英機) のボストンは360円／ドルの時代で、滞在中にニクソンショックが起きました。日本総事館が出来る前です。

短期滞在予定が想定外の長滞在、家族も一緒することとなりこれまた予定外に長女が誕生、出産時は帝王切開の通告。その頃、日本人には何かと頼りになったのが日本食品を販売していた吉野家さん。残念ながらもうなくなりました。

誕生した長女を連れてルート128号を北上。マールヘッドのヨットハーバー見学。下ってボストンカナルのニシン遡上の捕獲、下町ボストンにある公園前でのビッグマック (60セント) を片手にボストントレイル散策。ボストンポップスの通いが高じて遠くタングルウッドまでフォードのマスタング (レンタカー) で足を延ばしたのも鮮明な記憶にあります。

半世紀前のこととして”マスアベ通り”の景色が今も時々思い出されるボストンです。

2人の娘はピアノが恋人の人生を選択しました。関さん主催の音楽の会に参加させていただいたのがご縁で皆さんとつながりが出来ました。人の出会いは不思議なものです。

コロナと共存できる音楽の力

生田 恵子 (娘)

今更改めて言うまでもありませんが、2020年は大変な1年でした。

もちろん、どんな年代の方にとっても、どんな職種の方にとっても、世界中全ての方にとって、とんでもない変化を強いられた年だったと思います。

私と姉も2020年にいくつかピアノ連弾の演奏会を予定していましたが全て中止、もしくは延期になりました。

大勢のお客様に集まっていただいて、生の音を聴いていただくことが生業である我々のような音楽家は皆当初、途方に暮れ、自問自答するしかありませんでした。

音楽は「不要不急のもの」なのか？

私たちの仕事は世の中にとって必要ない「贅沢品」に過ぎないのか？

しかし、コロナの正体も症状も対策も何もわからないまま、自粛自粛で息が詰まるような生活がいざ始まってみると、こういう時にこそ音楽の癒しの力が大事なのではないか、と思いつきました。おまけに正直なところ、通常の演奏活動が全てストップし、何も出来ない分、少々ヒマになってしまった私達。せつかく時間もあるし、演奏会とは違うけど何か少しでも発信することが出来ないだろうか、と考えて始めたのが、Youtube配信でした。もともと我々姉妹で持っていた（けど全然運用していなかった）ピアノ連弾用のYoutubeチャンネルで、3月15日から6月20日まで、100日間毎日連続100本の連弾動画と、曲目解説のブログ100記事を、連続投稿をするチャレンジを始めることにしたのです。

通常のクラシックコンサートでは、短すぎたり簡単すぎたり他のプログラムとのつながりが無さすぎると演奏できなかった曲たちも、Youtube配信なら色々演奏できますし、この際だから、とクラシックに限らず、ポップス、ジャズ、アニメ、ドラマ主題歌、演歌、童謡・・・とにかく色々なジャンルの曲をごちゃ混ぜにして、むしろ、視聴者の方に、明日どの曲が来るという予測がつかないように順番を並べて配信してみることにしました。

はじめのうちは広くきれいなスタジオを借りて大きなピアノで撮影していたのですが、緊急事態宣言でスタジオが閉じてしまい、仕方なく途中で我が家からの配信に切り替えました。広くもなく、カーテンのむこうに庭の物置小屋がうっすら映り込んでしまうような、ただの部屋ですから、どうしても撮影用のカメラを置ける位置も限られています。せつかく視聴していただくのにずっと同じ構図だけでは飽きてしまうから、と背景動画を付けたり、1台だけだったカメラを4台まで増やして編集で映像を切り替えたり、知り合いのカメラマンさんにプロ撮影用のライトをお借りしたり、と工夫を重ね、なんとか最後まで続けることが出来ました。

連弾曲は出版されている楽譜が多くはありませんし、曲を選んで楽譜を探して順番を考えて練習して撮影して編集して作文して・・・という作業を100曲も続けるのは決して簡単な事ではありませんでしたが、外出自粛などという緊急事態でもない限り、100日連続でこんな作業をすることはなかったでしょうから、コロナも我々にとっては悪いだけのものではなかったのかもしれない。

そしてこのチャレンジを続けていくうちに、「音楽に元気を貰えました」など、我々が狙った通り(?)のコメントを頂いたり、今度はこの曲を聴きたいとリクエストを頂いたり、色々な国の見知らぬ方から様々な反応を頂き、やはり音楽の力は絶大なのだと改めて実感しました。

緊急事態宣言の終了と共に、連続配信チャレンジは一旦終了しましたが、その後もサタデーナイトデュオとして毎週土曜日の夜20時に1曲ずつ新しい曲をアップロードしていく活動を続けてい

ますので、よろしければ皆様も是非「DuoA&K」もしくは「DuoA&K Youtube」で検索してみてください。

この1年を通して、オンラインコンサートや有料動画配信など、様々なツールを使って場所や時間にとらわれない音楽の楽しみ方が一気に増えたのは大変良いことだと思いますし、コロナが収束してもこの手の音楽ツールは発達していくでしょう。聴きに来て頂いた方に、一時でも「楽しかった！来てよかった！」と喜んでいただきたい。我々姉妹のその演奏活動コンセプトも、通常の演奏会でもYoutube配信でも変わりません。



でも、やはり音楽は生で空気の振動をお伝えし、お客様と演奏家が一体となって楽しむ、最後のアナログの砦だと信じている私たちにとっては、一日も早く、今まで通りの演奏会が開催出来る日が来ることを、その時を皆様とご一緒出来る日が来ることを、切に願っております。

ワーキンググループ・活動報告

コロナ禍で毎年企画されていた秋の紅葉狩りや1月の七福神めぐりや歌舞伎鑑賞が開催できませんでした。11月の総会も集まることができず、Zoomでの開催となりました。

総会

例年11月ごろに東京・田町のNEC三田ハウス芝倶楽部で開催されていましたが、コロナ禍でZoomでの開催となり約30名の出席がありました。それぞれからの近況報告があり、土居副会長が会長に就任しました。

音楽の会

関直彦・尚子

音楽の会の中心的活動として、一昨年まで毎年1回か2回、ホームコンサートを開催してきました。しかし、ホームコンサートは典型的な3密の環境で実施することから、コロナ禍が収まらない昨今、未だに次回の予定を組むことができない状態です。

ところで、当会のメンバーとして演奏家が10名近く所属していますが、いずれも昨年来、舞台上で演奏会を開催する機会を失い、苦境に立たされています。それでも前号の会報でお伝えしたように、そうした演奏家の多くは、ウェブ上で演奏を披露することがあります。そうした際には、皆さんに案内をeメールで送ります。物理的にコンサートに出席できなくとも、画面上で鑑賞することにより応援して頂ければ、励みとなることでしょう。

プログラム委員会

細田満和子、八代江津子、北原秀治、岩田衛

ボストン日本祭について：

2020年12月にバーチャルで開催されたボストン日本祭には、日本ボストン会からも何人もの会員が参加されました。

八代氏は、2021年1月末に、5年にわたるボストン日本祭会長職を退き、理事としてサポートしていくことになりました。2021年2月1日からは、佐野氏が新会長に、笹子氏が副会長に就任しました。

2021年のボストン日本祭については、バーチャルでの実行は決定しておりますが、実際の祭開催に関しては未定となっております。

今後のイベント

プログラム委員会

映画会（1）：

八代氏の関わってきた東日本大震災ドキュメンタリー上映イベントが開催されますので、お知らせします。企画を務めるRegge Life氏は、ボストンにある大学の教員で、日本在住経験もあります。

Footprints & Footsteps: 3.11 and the Future of Tohoku
3.11 から現在、そして未来へ —映像で振り返る東北の 10 年—

2021年3月5日（金）から3月11日（木）まで

各日とも午後7時～9時（米国東部時間、日本時間は翌午前9時～11時）

詳しくは下記のURLをご覧ください。

https://www.nipponclub.org/news_out/footprints-footsteps/?lang=ja

映画会（2）

（担当責任者：八代、北原、細田）

原爆実験による日米における人体被害を描いた「X年後」のシリーズの上映会を2021年10月に実施することを検討中。マンハッタン計画はMITを中心に行われたということでボストンとも深いつながりがある。また「X年後」監督の伊東氏は、何度もボストンで上映してきた。

レクチャーシリーズについて：

（担当責任者：岩田、別府）

実施を検討中。